

今日から秋学期。

今朝の気温は22°C、薄曇りの空でした。その後、9時前になって降り出した雨が、次第に本格的な雨となり、強弱を繰り返しながら終日降り続いています。

先週、17日には在学生オリエンテーションが行われ、大学に活気が戻ったように感じました。そして本日、秋学期が始まりました。春学期、学生の皆さんの安全・安心および健康の確保のため、授業開始日について、5月7日まで延期し、ICT等を用いた遠隔授業でした。6月1日より学内での実験・実習科目の対面による授業を順次進め、実験・実習・実技等の一部の授業を対面で実施しました。そして秋学期、一授業時間帯あたりの総受講者数を制限したうえで、対面授業を基本としつつ、遠隔授業を取り入れながら実施します。そのスタートの日を本日迎えました。本来の学生数には程遠いですが、キャンパスに学生の姿があることに嬉しくなりました。

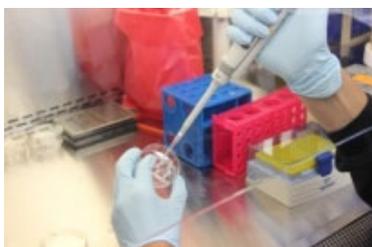


みなさん、コロナ禍で、制限された中での生活だったと思いますが、有意義な夏を過ごされましたか？私は、有意義でもありましたが、別れもあり、忙しくしておりました。

少し研究の話をさせてください。新型コロナウイルス感染症の広がりについて、より正確に理解し、その予防や対策を明らかにするため、ある集団に協力していただき、200人強の学生を対象に抗体獲得の有無を調べました。この研究で行われる検査は、新型コロナウイルスに一度感染すると免疫（体内の細菌やウイルスから体を守るシステム）ができるという研究結果から、これまでに感染があったか、また免疫があるかどうかを調べる抗体検査です。この研究に至ったのは、新型コロナウイルスに感染させたアカゲザルは次には新型コロナウイルスに感染しないという動物実験があったためです。ことから、ヒトでも少なくとも特定の期間は一度感染した後はしばらく感染は起こらないのではないかと推測したからです。



ウイルス伝播を抑制するためには、大多数の人が、新型コロナウイルスに対する免疫を持つ必要があると考えられています。これを（少し難しい言葉を使うと）集団免疫と言います。しかし、現状ではどれくらいの人が感染し、新型コロナウイルスに対する免疫をもっているのか定かではありません。そこで、調べてみました。



結果を詳細には示しませんが、調べた集団の中で、今回新型コロナウイルスに対する抗体の保持はありませんでした。この結果から考えられるのは、「感染していない」または「感染したが、抗体が消失した」と考えられます。（逆に）この結果は、調べた集団全ての学生が感染の恐れがあると言えます。

新型コロナウイルスに関する研究が、全世界において急ピッチで進んでいます。今の段階で私たちにできることは変わりません。現時点ではまだ「どうなれば終息」と言うのは難しいです。三密を避ける、こまめに手洗いをする、マスクをするなど個人個人にできる感染対策を続けるしかありません。

ユニバーサルマスクという言葉を知っていますか？無症状の人も含めてマスクを着用する」という考え方です。この考えは「発症前に感染性のピークがある」という事実と「マスクは会話などで発生する飛沫の拡散を減少させる」という事実から、マスク着用による感染予防が高いと考えられています。マスク着用による家族内感染の予防効果が、医学誌BMJに報告されています。マスクに関して、これまでは科学的な根拠（エビデンス）が十分ではありませんでしたが、徐々にそのエビデンスが増えてきました。

New England Journal of Medicineと言う医学誌に「新型コロナに対するマスク着用ーワクチンを待つまでの「種痘」の可能性」というタイトルの興味深い記事が掲載されました。この記事には、マスク着用による重症化予防効果の可能性について紹介しています。これとは別に、新型コロナウイルスを感染させたハムスターと、感染していないハムスターを直接接触できない同じ環境に入れて、感染が成立するかどうかを検証したものが医学誌Clin Infect Dis.に報告されています。これによると、マスクに新型コロナウイルスの伝播の予防効果が示されています。加えて、この研究では、通常ハムスターが新型コロナウイルスに感染すると重症化することが多いのに対し、マスクを着けて感染したハムスターは、軽症であったことも報告されており、予防効果だけでなく重症化阻止効果もある可能性が示唆されています。

ただし、マスクの種類によって効果は異なります。マスクの種類と飛沫の濾過効果の違い（DOI: 10.1126/sciadv.abd3083）が報告されていますが、この文献によると、バンダナやネックゲイターは何も着けていないのと同様程度の効果しかないことが書かれています。簡単

に言うと、マスクは医療従事者が用いるサージカルマスクが良いようです。

これらのエビデンスを統合して、中部大学でもちゅとらマスクによる啓発ポスターを作成しました。

新型コロナウイルスと付き合いながら、秋学期を進めることになります。社会機能を維持しながら、流行が穏やかであるよう地道な努力を続けるためには、“マスクをつけているから自分は安心”と思わず基本的な感染対策を複合的に行ってください。手間や費用がそれほどかかるものでは無いです。さらには、より頻度の高いインフルエンザや風邪(感冒)の予防になるので、無駄では無いと思います。

秋学期、大学に来たら、学生サポートセンターを利用してください。対面面談も再開しています。



学生サポートセンター長 伊藤守弘(9月25日)